



公益財団法人 長崎平和推進協会
<https://www.peace-wing-n.or.jp/>

- 被爆73周年 イベント
- 写真資料調査部会主催 写真展「被爆後の長崎—米軍占領の記録」
- 継承部会員、平和集会で被爆体験講話
- 平和案内人 8月7日～9日のべ117人が活動
- 自分たちが考える国際・平和交流プログラム発表・審査会
- 国連軍縮週間市民のつどい
- 第6回核兵器廃絶 - 地球市民集会ナガサキ
- 家族・交流証言者、被爆体験記朗読ボランティアを派遣しています
- 長崎国際平和映画フォーラム 2018
- 会員の広場
- TOPICS! (第2期生朗読ボランティア育成講座を開講します ほか)



平和の灯 (平和公園)

被爆 73 周年

被爆 73 周年を迎えた夏、
長崎の各地で様々な平和のイベントが行われました。



「長崎平和宣言」は、長崎市のホームページからご覧いただけます。
<http://www.city.nagasaki.lg.jp/>



田上長崎市長

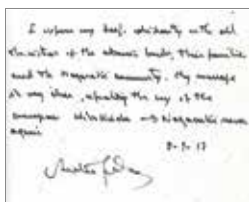
8月9日、平和公園で被爆73周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が執り行われました。初参列の2カ国を含む71カ国の代表など、世界中から約5,200人が参列し、原爆犠牲者を慰霊しました。

田上市長は「長崎平和宣言」で、核兵器禁止条約の早期発効を世界に強く訴え、「市民社会の力で『平和の文化』を広げていきましょう」と呼びかけました。

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典



グテーレス国連事務総長 追悼平和祈念館に来館



「すべての原爆被害者、そのご家族のみならず、そして長崎にお住まいの方々と深い連帯を私は表明します。私のメッセージは明確です。勇気ある被爆者の叫びに続くこと - 長崎を二度と繰り返さないように、と」

国際連合広報センターより



8月9日、アントニオ・グテーレス国連事務総長が長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への初めての参列に先立ち、原爆資料館と追悼平和祈念館を訪問されました。

黒川館長の案内で追悼平和祈念館が収集した被爆体験記などの資料をご覧になり、その後、追悼空間にて長崎で新たに決意の言葉を残されました。



「ナヘア」とは、長崎における新しい平和活動団体「長崎平和アートプロジェクト」の略称で、2018年(平成30年)1月1日に発足しました。

これまで長い間、長崎で活躍を続けてきた各種の文化団体が心を一つにして、8月の一カ月間、市民参加による平和発信の新しい試みを始めました。

パリ在住のデザイナー・高田賢三氏の提唱に呼応した各界の著名人や日本漫画家協会の有名作家によって絵付けされた福島県の郷土民芸品「おきあがりこぼし」を展示して、東日本大震災被災者に対する精神的支援を行おうとする事業が、広島、長崎の被爆者にも相通じました。長崎では「折り鶴再生画用紙子ども絵・書」を加え、キッズゲルニカ、長崎平和音楽祭、茶道、生け花、写真、アートストリートなども行い、多彩な作家たちのご協力により、未来につながる成果を確信して今年度事業を終了しました。

長崎市、長崎平和推進協会および民間協賛各団体のお力添えに深く感謝いたします。

「ナヘア」会長 米村昭彦

国際平和シンポジウム 2018 「核兵器廃絶への道～持続可能な平和のために～」



7月28日に、原爆資料館ホールで国際平和シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、長崎市と広島市で交互に開催されており、今年度は朝日新聞社、長崎市、長崎平和推進協会の主催で、長崎市で開催されました。

V・ファーレン長崎の高田明社長と田上市長との特別対談「愛と平和と一生懸命」で盛り上がった後、シンポジウムへ移行しました。シンポジウムでは、核兵器の開発、保有、使用を法的に禁じる核兵器禁止条約の採択から1年を経た世界の動きや、米トランプ政権の核戦略、市民社会のアプローチについて、意見が交わされました。



V・ファーレン長崎 高田社長

長崎原爆犠牲者追悼献茶式



8月5日、裏千家大宗匠の鵬雲斎千玄室氏による「長崎平和祈念献茶式」及び「長崎原爆犠牲者追悼献茶式」(茶道裏千家淡交会主催)が長崎ではじめて行われました。追悼平和祈念館の追悼空間では、原爆犠牲者の追悼と世界恒久平和を祈念し、千玄室氏が自ら点てたお茶を献納されました。

千玄室氏は現在95歳。学徒出陣で海軍に入り、特攻隊への入隊命令が下されました。「私は一度死にました。戦争による無駄な殺戮や破壊は二度とあってはならない」と「一盃からピースフルネスを」の理念のもと、茶道を通じて世界中で平和を訴えられています。



つきについて考える とき 時間



返さないために、長崎平和推進協会の役割とは・・・

写

写真資料調査部会主催

写真展「被爆後の長崎―米軍占領の記録―」



写真資料調査部会は本年度夏季写真展「被爆後の長崎―米軍占領の記録―」を、7月23日～8月3日の会期で追悼平和祈念館の交流ラウンジにて実施しました。今回は初めて被爆後の米軍占領を取り上げています。

長崎市が実施した過去3回にわたる米国国立公文書館での資料収集には、深堀好敏・前部会長も参加し、約2600枚の写真を収集しました。

収集写真のうち、米国戦略爆撃調査団写真の主要なものは、過去2回の写真展で大半を紹介しました。一方、海兵隊の写真は一部の原爆の被災状況のほか、多くは占領中の行動記録のため、これまでは未公開です。本年度の企画は視点を変え、未公開の海兵隊写真を中心に紹介することにしました。

敗戦後70余年が経過し、多くの市民が戦争の実態を知らない現在、原爆による

人命や財産の損失に加え、戦争が負の結果しか生まないことを伝えるため、占領の実態の紹介も意義あることと考えています。

ただ残念ながら、当然これらの写真は戦勝国の視点で撮影され、占領を受け入れた長崎市民の感情を伺い知ることは困難です。

しかし展示期間中、占領軍関係者のご遺族や、海兵隊員を祖父に持つ米人男性等から、当時の写真を所有しているとの申し出がありました。今後機会があれば、より多角的に占領の実態を紹介できないかと考えています。

末筆ながら、快く会場をご提供いただいた追悼平和祈念館、開会セレモニーを盛り上げていただいた音楽部会の皆様にも、改めてお礼を申し上げます。

写真資料調査部会長

松田 斉



長崎で原爆について、平和に

73年前長崎で起こったことを忘れないために、二度と繰り返



平

和案内人、8月7日～9日

のべ1117人が活動

毎年8月7日～9日は、多くの方が原爆資料館を訪れるため、平和案内人の原爆資料館常駐ガイドの人数を増やしています。今年約1000人の来館者をご案内しました。また、碑めぐりも全国各地の自治体からご依頼をいただき、利用者からは「見学のポイントが分かって良かった」等の感想をいただきました。

継

承部会員、平和集会で被爆体験講話



8月9日の平和祈念式典に合わせて長崎を訪れる全国各地の団体等から、今年も多くの依頼を受け、被爆体験講話を実施しました。原爆が投下されたのと同じ時期に長崎市内でお話しすることは、継承部会員にとって普段とは違う思いがあるようです。小学生から大人まで幅広い年代の方々が、熱心に聞いてくださいました。

自

分たちが考える国際・平和交流

プログラム 発表・審査会



長崎の若者が平和への取り組みを発表!

9月8日、追悼平和祈念館の交流ラウンジでアジア青年平和交流事業の発表・審査会を行いました。この事業は、長崎の若者が企画する事業を当協会が委託し、若者自身に実施してもらうものです。今年は3校からの応募があり、すべてのチームを認定しました。これから3月まで、若者が取り組む事業を支援していきます。

長崎純心大学「Green Pieces」

昨年度この事業で制作した長崎から海外に平和を発信する英語電子パンフレットを活用しながら、長崎の外国人と若者が一緒に平和についての考えを分かち合う「Peace Forum」を開催し、SNSや大学で世界へ発信する。

活水高等学校「平和学習部ふりそでプロジェクト」

絵本「ふりそでの少女」を多言語化することで、より多くの人に原爆の非人道性を訴えるほか、「長崎アーカイブス」と連携し、被爆者が被爆した場所でその経験を追体験する。また、アーカイブの環境を整えるワークショップも開催する。

長崎県立大学シーボルト校「金村ゼミ」

「過去・今・未来」とテーマを分け、原爆や平和に関連する人物や建物の映像、音声を撮影。長崎の尾曲がり猫をイメージしたマスコットキャラクターが取材する形式とし、その動画をYouTubeにアップして、世界の人々に平和と長崎をアピールする。

第6回核兵器廃絶-地球市民集会ナガサキ

国連軍縮週間 市民のつどい



- ▼ 日時 11月16日(金)～18日(日)
- ▼ 場所 平和会館ホール、長崎原爆資料館

核兵器禁止条約の採択、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞受賞、さらには、朝鮮半島における非核化の動きなど、近年、核を取り巻く状況が大きく変動しています。

この集会では、「核兵器のない世界」を実現するために私たち市民社会は何ができるか、何をしていくべきか、幅広い世代のみなさんと共に考えていきます。

- 16日** 13:00 開会集会・基調講演
15:30 分科会1 朝鮮半島の平和と非核化の進展
～北東アジアの核なき未来
- 17日** 9:30 分科会2 被爆の継承
～ヒバクシャの想いに学び・伝える
14:30 分科会3 次世代とつくる核なき世界
14:30 特別企画 へいわってどんなこと？
絵本作家 浜田桂子さんとともに
- 18日** 9:30 分科会4 核兵器なき世界の実現をめざす
～NPT体制と核兵器禁止条約の役割
13:30 閉会集会・長崎アピール

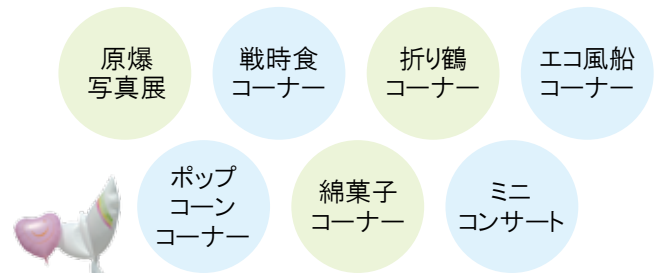
お問合せ 核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会
☎ 095-844-9923 <http://ngo-nagasaki.com/>



- ▼ 日時 10月27日(土)10:00～13:00
- ▼ 場所 長崎原爆資料館前 階段下広場

当協会では、10月24日～30日の国連軍縮週間期間中に開催される市民大行進に合わせて毎年「市民のつどい」を開催しています。

今年も、戦時食の体験や原爆写真展、また平和へのメッセージを記入できるエコ風船コーナー、ミニコンサートなど、子どもから大人まで楽しめるイベントを行います。この機会に、改めて平和の大切さを感じていただければと思います。



※雨天時も実施します。

お問合せ 長崎平和推進協会 ☎ 095-844-9922
<https://www.peace-wing-n.or.jp/>



戦後73年が経過し、被爆者の高齢化が進んでいます。被爆者の体験や平和への思いを次世代に語り継ぐために、平成30年度から、広島市及び長崎市と協力し、家族・交流証言者、朗読ボランティアを国内外に無料で派遣する「被爆体験伝承者等派遣事業」を始めました。今年度はこれまでに91件の申し込みがあり、8月末までに64件を実施しました。

証言講話では、原爆に関する基礎的な説明や被爆者から受け継いだ体験を資料を使いながらお話しします。また、朗読会では、被爆者が自ら綴った体験記などを朗読して、その体験をお伝えします。

被爆者から語り継がれた想いをぜひ聞いてみませんか。

被爆者の体験を語り継ぐために・・・
家族・交流証言者
被爆体験朗読ボランティアを
派遣しています

お問合せ：追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055 <https://www.peace-nagasaki.go.jp/>

長崎国際平和映画フォーラム 2018



イベント情報

▼ 日時 12月15日(土)～16日(日)

▼ 場所 ◎長崎原爆資料館ホール ●追悼平和祈念館交流ラウンジ

今回で9回目を迎える「長崎国際映画フォーラム」では、親子愛・友情をテーマに、選りすぐりの作品を集めました。映画のほかに、無名塾の松崎謙二氏らによる朗読劇や音楽部会による合唱、昨年に引き続きニューヨーク在住の写真家ポーレ・サヴィアーノ氏による写真展、フォトワークショップも開催いたします。折り鶴や平和への願いをメッセージツリーに飾る特設コーナーもあります。

子どもからお年寄りまで楽しめるプログラムですので、ぜひお越しください。



メッセージツリー

15日 10:45～16:30

- オープニングセレモニー（音楽部会による合唱）
- 永遠の会朗読「土山秀夫氏の体験記（仮）」
- ポーレ・サヴィアーノ写真展「FROM ABOVE」
- ポーレ・サヴィアーノ フォトワークショップ
- ◎ 朗読劇「二重被爆の姉と弟（仮）」（無名塾）
- ◎ 朗読劇「ノーモア・ヒバクシャ」（劇団 TABIHAKU 他）
- ◎ 映画「母と暮せば」2015年（吉永小百合、二宮和也）

16日 10:00～17:00

- ◎ 映画「夕風の街・桜の国」2007年（田中麗奈、麻生久美子）
- 音楽部会による合唱
- ポーレ・サヴィアーノ フォトワークショップ
- ◎ 映画「父と暮せば」2004年（宮沢りえ、原田芳雄）
- ◎ 映画「硫黄島からの手紙」2006年（渡辺謙、二宮和也）

お問合せ 追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055
<https://www.peace-nagasaki.go.jp/>

ポーレ・サヴィアーノ写真展「FROM ABOVE」



会期：12月15日～19日

会場：追悼平和祈念館交流ラウンジ

インタビューをもとに被爆者を撮り続けているポーレ・サヴィアーノ氏の写真展です。初公開の写真を含め、24点を展示します。

No.6



お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
 〒 852-8117 長崎市平野町 7-8
 長崎平和推進協会「会員の広場」係



荒木一彦

「ピースマツチ」は、V・ファアレン長崎が、J1へ昇格したことで実現したもので、当日は、平和の想いを込めて折った折り鶴を持参した小学生を無料招待するなど、様々な平和のイベントが取り組まれ、全世界に発信した。

「スポーツを楽しめる平和」に感謝する「ピースマツチ」を継続するため、V・ファアレン長崎にJ1での勝利を強く期待し、私は応援を続けた。

73年前、原爆を投下された被爆地同士のV・ファアレン長崎とサンフレッチェ広島とのサッカーJ1戦が、「ピースマツチ」として8月11日に広島市で開催され、私も観戦した。「核兵器廃絶と世界恒久平和」の祈りを込め、長崎から田上市長、被爆者代表の森田博満さん、長崎商業高校の生徒が、試合前のオープニングセレモニーに出席し、「スポーツができる平和」の大切さを訴えた。今回の試合には、広島市で今季最高の2万人を超える観客が集い、「サッカーを楽しめる平和」の尊さをかみしめた。



Peace Wing Nagasaki
会員の広場

第2期生朗読ボランティア育成講座を開講します

追悼平和祈念館では、朗読ボランティアが館内での定期朗読会や常駐朗読、学校などでの派遣朗読会を通して、被爆者の残した被爆体験記を語り継ぐ活動を行っています。

今回、平成31年度から活動する第2期生の育成講座受講生を募集し、約40人に応募いただきました。10月13日に開講し、来年3月までの講座で、朗読や原爆について学び、被爆体験記への理解を深めます。



第1期生の活動の様子

被爆体験記朗読ボランティア **入場無料**
「被爆体験を語り継ぐ永遠の会」 第11回定期朗読会

「動員された若者たち～奪われた青春～」



学徒動員などで長崎にいて被爆した沖縄・鹿児島・宮崎・佐賀・長崎の若者たちの、長崎原爆の記録を朗読します。

日時:10月21日(日)14:00～15:00
場所:追悼平和祈念館地下2階 交流ラウンジ

【問合せ】追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055

聞き取りによる被爆体験記の執筆をお手伝いします！

「被爆の記録を体験記にして残したいけど、自分ひとりでは文章にまとめられない」という方のために、追悼平和祈念館では聞き取りによる被爆体験記の執筆という形でお手伝いをしています。

執筆を希望される方は、追悼平和祈念館までご連絡ください。

【申込・問合せ】追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055

原爆資料館ミュージアムショップ新商品のご案内



被爆三世の管田多津子さんが制作した「いのりの折り鶴シリーズ」

- ・ストラップ 600円
- ・しおり 1,000円
- ・タックピン 1,200円

【問合せ】書籍販売コーナー ☎ 095-842-0580

長崎に届けられた千羽鶴再生紙の新しい商品です！



一筆箋 350円



トートバッグ 800円

世界の核弾頭の数 (2018年6月1日現在)

ロシア	米 国	フランス	中 国	英 国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合 計
～6,850	～6,450	300	270	215	80	～140	120～130	10～20	～14,450

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1108人
- ◎賛助会員 148人
- ◎学生会員 12人

(平成30年9月17日現在)

賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎植田 スミ子 (敬称略) 一万円
- ◎匿名七人 一三、三八七円

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

今年度まだ会費を納めていただけない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

お支払いただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。ご連絡ください。

